留學生七名が協調會を訪問、長岡常務理事より挨拶があり、職員と懇談を交した。

講師派遣

仙臺鑛山監督局よりの依頼により本會參事長谷孝之氏仙臺に出張、六月十八日東北鑛山勞務協議會に於て「物價騰貴と賃銀問題」につき講演をなした。

尙札幌鑛山監督局よりも依頼あり同樣長谷參事七月六日札幌に出張講演をなした。

大阪支所長松村勝治郎氏は内外木材工藝株式會社の依頼に依り六月二十二日、同工場從業員四百名に對し、產業人の心得に就て一時間講演をなした。

協調會圖書館

七月一日より二十九日迄の本館閲覽者延人員は一一三名、内本會職員四六名、官公吏會社工場職員各一三名、教授學生一七名、其他二名である。開館日數は二五日間。

社會政策學院第三十八回講習會終了式

本會社會政策學院第三十八回社會政策講習會は本年四月十二日開講されたが去七月十日本學院教室に於て鹽澤學院長、町田、長岡兩常務理事、山上學院主事、大内參事列席の下に終了式を擧行、山上學院主事開會を宣し、次いで講習經過概要の報告の後、修了證書授與、精勤者表彰、鹽澤學院長の訓辭、町田常務理事の挨拶あり、之に對し修了生總代齋藤芳名君答辭を述べ式を閉じ、一同記念撮影の後協調會一階談話室に於て茶話會を開催して盛會裡に散會した。

協調購讀希望に就て

一ヶ年分六十錢也振替郵便又は小爲替にて協調會宛申込下さい。送料は要りません。寄贈の方もなるべく申込むよう願ひます。百人以上の團體申込は實費提供致します。

支所、出張所ニュース

大阪支部

一、第十四回三都會

本會理事河原田稼吉氏の來阪を機會に六月二十六日午後五時半、新大阪ホテルに於て開催、河原田氏より現代政治の動向について御講話あり、賑やかなる質疑應答の後散會。出席者十七名。

一、第十五回三都會

七月十四日午後五時半、淸交社に於て開催「大阪府下に於ける思想運動」に就き大阪府特高課長杭迫軍二氏の講演あり。出席者二十五名。

一、映畫鑑賞會

本會、京都府工業聯合會、京都府工場衞生聯合會主催にて六月七日午後七時西陣織物同業組合に於て、產業福利映畫映寫、觀覽者二百名。

本會、產業安全協會合同主催にて六月二十一日午後七時より大阪市北市民館に於て產業福利映畫映寫、觀覽者三百名

一、興民懇話會、茜會工場見學

本會關係興民懇話會、茜會の男女會員四十名は七月十七日午後堺市福助足袋株式會社を見學せり。

名古屋出張所

一、勞務者代表安全座談會

七月八日午後一時半、名古屋市中央職業紹介所に於て開催、高田縣工場課長代理、蒲生本會理事、野口縣工場課技師より安全運動に就き夫々講演あり出席者約百五十名、盛會裡に終了。

福岡出張所

一、第十回安全週間

福岡縣下第十回安全週間は、縣工場課及縣鑛工聯合會主催の下に七月一日より七日に至る一週間、縣下二、五五九工場に實施せられたが、本會に於ては、蒲生常務理事先頭に起ち六月十九日より二十三日に至る五日間講演に巡られ宣傳映畫を六月十九日より七月十八日に至る一箇月間三十一工場鑛山に於て映寫する等遺憾なき活動を遂げた。

一、淸原所長事務打合の爲七月十三日夜上京二十二日歸福。

秩父地方事業主講習會

埼玉縣工業懇話會と本會との共同主催の下に秩父地方事業主講習會が八月三日より五日に到る二泊三日に亘つて秩父町工民道場に於て開催された。

此の種講習會は昨秋川口町事業主を主として金雞會館に於て催したのであつたが、好評嘖々、成績の見るべきものが多かつたに鑑み、本年度は埼玉縣下數ヶ所に亘り開かれる計畫を樹て、本講習會はその魁をなしたものであつた。

會場に當てられた工民道場は秩父織物工業組合の教育活動の一として十一年末建設され、工民の爲の精神的鍛錬所で公園に隣接し、右に武甲の秀嶺を仰いで朝暉夕陰共に魂の涵養には好適の地を占めてゐる。

講習會に集ふ人には秩父地方の織物業主又はその子弟或はその管理人卅人で秩父機業界の中心的人物のみであつた。

酷熱の砌さも物ともせず講習會に參じた人達も亦よく此の趣旨を理解されて五時の起床より九時半の就寢に到る迄、馴れぬ掃除から靜坐、聽講に到る迄、一分の隙もなく精進をされたことは吾々の等しく感激に堪えぬ所であつた。

人が環境を克服するのか、環境が人を造るのかの難しい議論はさて措きかうした講習會の雰圍氣と云ふものは不知不識の間に吾々を或るレベルに迄引上げて呉れることは確かであつて澄み切つた心境に迄高められたことはその一擧手一投足の間にも見られて嬉しい限りであつた。この高い澄徹した心境こそとりも直さず勞務管理の要諦であり、正しい工場經營の基調精神ともなるものであらう。

尙ラヂオ體操より種々の行事に到る迄御指導を賜つた工民道場主幹兒玉親德氏の獻身的御盡力には參集者一同の深く感謝する處である。

演題及講師

事業ヨリ見タル論語　中國合同電氣株式會社重役 心交協會理事　乾　利一

各國工業見タママ　山口自轉車工場主　山口　重彥

人的要素ノ尊重　埼玉縣知事　川西　實三

新時代ニ順應セル勞務管理　埼玉縣工場課長　松本　貫一

勞働管理ノ基調精神　協調會常務理事　蒲生　俊文

中小工業ノ勞務管理　同　參事　長谷　孝之

中小工業ト年少勞働者　同　參事　大内　經雄

實地調査ヨリ見タル中小工業　同　參事　村山　重忠

修身ト治人　同　囑託　今井　俊介

「社會政策時報」に就て

社會政策時報は協調會の機關雜誌であつて、大正九年九月創刊、以來既に十七年、本年五月にはその第二百號記念特輯を發刊した。

毎號、内外社會運動、產業勞働事情、各種の思潮、制度等に關する確實な調査資料と卓拔な批判主張の論說を掲載してゐる。又最近では毎年一回前年中の社會運動の概觀を紹介してゐるが、其の外、時の重要問題或は重要事項を捉へ特輯として刊行してゐる。例へば「中小商工業問題」「勞働協約問題」「農村不況問題」「滿蒙移民問題」「社會政策の再檢討」「社會思想問題」「農村問題」「日本商品の進出と中小工業事情」「東北問題研究」「小工業問題」「九州に於ける產業と勞働」「我國社會政策の檢討（二百號記念）」等がそれである。

幸にして創刊以來江湖に好評を博し、今日我國に於ける唯一の社會政策雜誌として、學會及び一般社會に認められてゐる。

今や國家非常時、社會不安の秋に際し嚴正公平な立場を堅持して社會の動向を指示する本誌こそは、渾沌とした世相を照す燈臺であらう。

斯くの如く本誌は常に時と密接に結ばれてゐる故、本誌を時を追ふて揃へて見るならば、そのまゝに我國社會の進展を物語る貴重な歷史である。（定價五十錢全國書店にあり）

編輯便り

○僅か一ヶ月の間にこの樣な重要問題が起きようとは、神ならぬ身の何人が想像し得たであらうか？

○井上先生の玉稿は單なるヂャーナリストの大量生產品とは少しわけが違ふ。支那の要人との多年の交際の後の御研究である。氏こそは今日の日本になくてはならぬ國民外交官の最高峰である。貴重な御時間を本誌の爲に割愛せられた事を感謝する次第である。

○國民協力運動の難點は、其の目標と方法とが發見されぬ所にあるのでは無からうか？　本誌は中島仁之助氏の論文を始め、各方面の意見を網羅して、江湖の參考に供する事にした。

○出征兵士の待遇、これこそが日本精神の發露である。フォード理論に依つて說明し難い日本の溫情主義と威張つてもよからう。なるべく澤山やつて貰ひたいものだ。そんなわけで本誌はなるべく待遇のよいものだけを集めたかも知れない。

○安全の神樣蒲生俊文氏は何時も人をホロリとさせたり笑はせたりして、目的を達する。こゝでは親孝行から出發して產業平和を說いてゐる。

○もう理屈を言つては居れない。時局は急迫してゐる。現實に對して認識不足にならぬ樣、各自の本分を完ふすべき秋となつた。

○暑い暑いとこぼす時ではない。

社會政策學院 學生募集

第三十九回社會政策講習開始

會場　芝區芝公園協調會館内本學院教室

講習期間　自昭和十二年九月六日（月）至同年十二月十一日（土）（日曜祭日休講）

講習時間　自午後六時至九時

講習申込　昭和十二年八月末日限り

受講資格　年齡二十歲以上にして中學校、實業學校高等女學校卒業の者又は之と同等以上の學力ありと認むべき者にして詮衡の上入學許否を決定、講習開始前之を通知す

講習料　金拾五圓也（講習開始式當日迄納入のこと、場合により分納を許可す）

懇談會・茶話會　隨時開催

科目及講師

正科講座

現代社會思想批判　東京帝國大學教授　河合榮治郎氏

最近に於ける經濟の動向　東京帝國大學教授 經濟學博士　土方成美氏

最近に於ける政治の動向　東京帝國大學教授　蝋山政道氏

社會政策及勞働問題　社會政策學院長 法學博士　鹽澤昌貞氏

社會政策と財政　東京商科大學教授 經濟學博士　井藤半彌氏

勞働立法　東京商科大學教授 法學博士　孫田秀春氏

海外社會運動の動向　國際勞働局東京支局長　鮎澤巖氏

我國社會運動 勞働組合、無產政黨運動　協調會參事　中川賢一氏

我國社會運動 國家主義運動　協調會囑託　坂井隆治氏

我國社會運動 農民運動　同　山本巖氏

特別講座

社會思想批判　慶應義塾大學總長 經濟學博士　小泉信三氏

我國人口問題　東京商科大學學長 法學博士　上田貞次郎氏

勞資協力の實際　全日本勞働總同盟會長　松岡駒吉氏

實地講座

產業及勞働事情　會期中　數回（土曜日午後）

實地工場其他に於て其企業事情並勞働事情を見學講習を爲す

社會政策學院概要

學院長　協調會理事 法學博士　鹽澤昌貞

所在　東京市芝區芝公園六號地協調會館　電話芝（43）一、一三一—一、一三五　時間外專用　一、一三四

財團法人協調會は大正八年末創立後、同會の主要なる事業の一として教育的に社會政策を一般に徹底せしむる爲、翌九年三月本學院の前身たる社會政策講習所を設立し「社會政策を研究せんとし又は社會施設の實務に當らんとする者を養成する」目的を掲げて、同年四月十二日より神田區錦町東京工科學校内に於て第一回講習を開始した。其後大正十年七月芝公園第二十四號地に移し同九月より第四回講習を開講し、大正十二年三月協調會館の新築成るに及び同館内に移し、社會政策學院と改稱、專ら施設の整備と內容の充實を圖りたる上、同四月より第八回講習を開講した。大正十三年一月第九回講習よりは晝間職務にある者の便宜を考慮